

鬼	北上市立	館
だ	の	り
第19号		



### 北上の鬼っこ、なまはげに会いに行く！

8月4日から6日にかけて、秋田県若美町でわんぱく講座「鬼っこ合宿～なまはげに会いに行こう！」を行いました。初日の男鹿半島は霧に包まれ景色が見られず残念でしたが、なまはげの実演や鶴木小学校（若美町）とのミニバス交流、メロン収穫体験に北上のわんぱくたちは笑顔、笑顔！海水浴やマリンスポーツも楽しんで、思い出がたくさんできました。「いい子で、ちゃ～んと勉強しろなー！」なまはげさんとの約束です。

# 写真で振り返る「鬼の館」上半期 ～こんなことがありました～

## ◆特別展◆



鬼の館では、市民の皆様への施設開放事業として企画展示室をご利用いただいています。

4月27日から6月22日までのおよそ2カ月間、「あっぱへのレクイエム―児玉晃・児玉智江二人展」を開催しました。亡きお母様スミさんの生家が当館の目の前ということもあり、展示された絵画や彫刻に静かに見入るお客様が多かったように思います。児玉晃さんは、特別展終了後の7月に作品3点を北上市に寄贈なさいました。

## ◆企画展◆

7月6日から9月7日まで企画展17「民画逢都繪<sup>あふつえ</sup>を楽しむ～百笑一鬼」を開催しました。神奈川県大磯在住の絵師河口邦夫さんの作品100点がせいぞろい。近世に大津の街道でお土産品として売られていた大津絵を模倣した河口さんの「逢都繪」は、大津絵同様に風刺や遊び心が織り込まれていて、展示室からは笑いや共感の声が聞こえてきました。8月7～9日には河口さんの指導のもと逢都繪を描くワークショップも開催。見ると描くとは大違い?でしょうか。



## ◆大乘神楽大会◆

今年で10回目をむかえる大乘神楽大会。今回は胆沢町小山<sup>おいがし</sup>の狼志<sup>おいがし</sup>田神楽保存会(写真)をお招きし、6月8日に開催しました。少々汗ばむような陽気のなか、激しく舞われる神楽に、特設ステージは修験の道場さながら。毎日練習したという小学生の凛々しい横顔が印象的でした。郷土芸能が受け継がれていくことを期待したいです。



## ◆音楽会◆



博物館で音楽会?不思議な組み合わせですが、2カ月に一度エントランスホールで開催し、好評を博しています。演奏してくださっているのは邦楽愛好会(代表菊池洋子さん)の皆さん。「もののけ姫」などなじみのある曲目が多く、鬼面を背景に奏でられる琴の音に、足を止めて聞き入るお客様も大勢いらっしゃいます。

音楽会の開催日程については、鬼の館にお問い合わせください。

## ◆芸能公演◆

4月から11月までの第4日曜日に開催している鬼の館芸能公演。今年も市内の各鬼剣舞保存会の協力を得て、1時間のステージをご覧ください。4月27日に行われた第1回公演（岩崎鬼剣舞保存会）には「ちびっこ偉者（イカモノ）」（写真）も登場し、観客の目を釘付けにしていました。心なしか強く吹く、岩崎の風のなかで舞われる鬼剣舞、是非ご覧ください。



## ◆こどもの日わくわくイベント◆



5月5日のこどもの日に開催している「わくわくイベント」は、鬼や妖怪に関する楽しい創作活動を、気軽に楽しんでもらうものです。今年、妖怪ふうせんづくりや鬼の面づくり、鬼に変身するコーナーを設けました。こども以上に夢中になるお父さん、お母さんも。妖怪ふうせんの名前には、「ふわりん」「みつめドラキュラ」「こまちようかい」「どろろん」「らーきーきょういくようかい」などユニークなものがたくさんありました。5月5日は、小中学生入館無料です。

## ◆鬼ZZ・プレイミュージアム◆

鬼になったり、おにで遊んだり、オニを作ったりできるこどものための遊び場として設けられたこの鬼ZZ・プレイミュージアムも、今年で5年目となります。体験メニューの中心となっている張り子面づくりは、北上市の出前講座のメニューにも取り入れられ、幅広い年齢層の方に体験していただいています。

初夏と夏休みには期間限定のワークショップも開催。今年は「ワラ馬づくり」と「魔よけの草履づくり」。こどもはもちろん、お父さんお母さん方にもなじみが薄くなったワラ。その匂いや感触に戸惑いながらも、参加者全員が完成に至りました。

毎回たくさんのご応募をいただいておりますが、特別期間にかかわらず、毎週日・火・木曜日にはお面作りや「鬼に変身」を体験することができますので、職員にお声がけください。



## お知らせ（下半期の予定）

### ●企画展・特別展

〈開放事業②大江昌嗣銀河と月展〉

平成15年9月14日(日)～10月25日(土)

〈特別展 神々と鬼～鬼神・餓鬼・妖怪〉

平成15年11月16日(日)～16年1月12日(月)

〈特別展 市民の心のたからもの展〉

平成16年1月25日(日)～3月7日(日)

〈特別展 平成15年度収蔵資料展〉

平成16年3月17日(水)～5月5日(水)

### ●芸能公演（午後1時30分より1時間程度）

平成15年10月26日(日) 谷地鬼剣舞保存会

平成15年11月23日(日) 口内鬼剣舞保存会

平成16年3月28日(日) 滑田鬼剣舞保存会

### ●鬼ZZ・プレイミュージアム

毎週 日・火・木 曜日に開催

### ●福豆鬼節分会

平成16年2月1日(日)午前10時～午後2時

\*変更になる場合があります。ご了承ください。

## 新資料紹介

# 虫追い人形

(青森県三戸郡田子町)

農耕予祝儀礼に結び付く民俗行事には、地域ごとに数多くの習俗が見受けられます。

この度、地域の方々の御理解を得て、収集に至った当資料は、「虫追いまつり」で主役を務める男女一對の「ワラ人形」です。

青森県南部に位置し、岩手県と県境を接する三戸郡田子町の飯豊地区で現在も年中行事の一つとして行われている農耕習俗で、毎年7月20日が祭日となっています。

飯豊自治会が中心となり、まつりの当日に村の中心にある神社に部落の全戸から一人から二人が集まり、まつりの主役となる男女各一体のワラ人形と「悪虫退散五穀成就天下泰平家内安全」と記されたのぼり旗を全戸の数だけ全員の手で製作します。

その後、神社の神殿に各種の供物とともに人形をはじめとするこれらが奉納され、神主の祝詞のもとで人形への入魂の儀式が行われます。

入魂の儀式が終わると参列者全員が、お神酒で身を清め、「飯豊虫追」と記されたのぼり旗を先頭にして、お人形様が続ぎ、つぎに太鼓、笛、手平鉦の順で囃子方、その後ろに参列者が各自製作した「悪虫退散」の旗をかざして持ち、列を構成して、囃子方の演奏とともに歩き始め、神社を後にし、村の下手に向けて村人全戸の田圃を囃しとヤーホレ、ヤーホレの掛け声とともに見て廻り、稲についた害虫を追い払います。参列者は自己の田圃の虫追いが終了した時点で、手に持っていたのぼり旗を畦道に差し立てて豊作の祈願をして列に戻ります。行列が下手の村境に到達すると女性のお人形様は、村境を守

る道祖神として、その場に祀られ、同様に上手には、男性のお人形様が村境の上手を守る道祖神として祀られます。

しかし、昨今では、このお人形様は、1年の間、村境に風雨にさらされ祀られていることから朽ち果てることが多く、環境美化上問題があるとして、道祖神としての役割が免除され、村の上手境に建立された圃場整備功労者の石碑の前で、「虫追いまつり」終了後に参列者全員に見守られながら焼却されているようです。

この農耕習俗は、青森県の無形民俗文化財として指定されています。

岩手県では、同様の習俗が県北部の安代町に伝承されていますが、「ワラ人形」は男女一對の"鬼"のワラ人形となっており、まつり終了後は、川に流されたり、焼却されたり、地域によって異なるようです。本来、農耕地帯であればどの地域でも形態を違えて行っていた習俗と考えられますが、昨今の機械化文明と精神信仰の希薄化から消え去ってきた民俗文化のひとつで、日本古来からの精神文化を守っていくうえで、貴重な習俗であると見られます。(主任学芸員 鈴木 明美)

平成15年7月20日「虫追いまつり」のお人形様  
(鈴木明美 撮影)



# 来館者の記帳から

～「鬼の館」いかがでしたか?～

▶こわいですね。本物を見たことがありません。本当にいるかどうか知りたいですよね。かつこいいと思うのは私だけかしら。こわいけど、あこがれます。(H11/11/6)

▶子供(2歳)がとても喜んでもう一度来たいと言うので2回目です。見たい見たいと言うわりにはとても怖がって、それを見るとおもしろいです。(H11/12/19)

▶幻の鬼面・・・最高!東京から来たのですが昔話の言葉がわからなかった・・・。また来たい!(H12/3/24)

▶鬼とは怖いものというイメージがありましたが、地域によっては土地を守る神というとらえかたをしているところもあるようです。(H12/4/20)

▶これだから日本の文化が大好きです。とてもおもしろい。他の国とも共通しているのは、やはり同じ人間?

(H12/7/20)

▶最初はこわかったんだけど、みているうちにすこしおにのことがわかってきたきがする。(H12/8/7)

▶こわかった。世界の面がおもしろかった。剣舞の種類が岩手にこんなにあるとは知らなかった。楽しかったです。

(H12/8/23)

▶毎年、国境祭りで見える鬼剣舞も良いけど、ここのビデオの出来もとても素晴らしい。踊りのグループが10以上もあるなんて知らなかったけど、とにかく東北地方の人々は伝承を大事にされていてどこに行っても郷土芸能として根付いていて、とても素晴らしいと思う。後継者の方たち、頑張ってください!

(H13/1/5)

▶「鬼の館」ととてもユニークな内容でした。鬼について今まで持っていた概念を変えさせられました。自分の中に住む鬼、愛すべき鬼、悲しいなかにも暖かさの感じられる鬼・・・、支配者が征服した者に対してレットルをはるために用いた鬼ということば・・・。今後の活動の発展を祈っています。

(H13/8/7)

▶鬼が来たら、手厚くもてなしたいです。(H13/9/22)

▶いろいろな鬼を見てとつてもびっくりしました。今夜は夢に出てくるようです。世界中の鬼は初めて見ました。少し興奮しています。

(H14/5/11)

様々なご意見ご感想、ありがとうございました。ご来館の際は、ぜひご記入ください。

## 『できごと Oni Museum』

～新聞の見出しよ～

H15上半期

「鬼の館」の今年度芸能公演 27日からスタート

(岩手日日 H15/4/16)

### 亡き母しのび二人展

油絵、彫刻など50点展示へ (岩手日日 4/26)

### 鬼剣舞格調高く

勇壮な舞に拍手 (岩手日日 5/5)

張り子の面にぬり絵わくわくイベント親子で鬼に親しむ (岩手日日 5/10)

### 影響受けた画家紹介

二人展出展の児玉晃さんタッチなど解説

(岩手日日 5/13)

教育面での活用定着 14年度月曜開館などで増加

(岩手日日 5/21)

### あっぱへのレクイエム

児玉晃・智江二人展 (週刊きたかみ 6/24)

### 修験の舞たっぷり

大乘神楽大会10団体が17演目

(岩手日日 6/11)

### ワラ細工で"馬っこ"作り

子供たち地域文化にふれる (岩手日日 6/22)

### 「鬼の姿」ユニークに

現代版大津絵来館者を魅了 (岩手日日 7/10)

### 「鬼の館」に新"珍"資料

貴重な資料寄贈 (岩手日日 7/24)

「民画逢都繪を楽しむ～百笑一鬼」庶民性豊かな鬼文化を覗いてみませんか (岩手日日 7/26)

### 帰省客に鬼剣舞PR

装束や面を展示 北上金ヶ崎P.A.下り売店

(岩手日日 8/10)

親子で創作楽しむ鬼の館ワークショップ草履作りに挑む (岩手日日 8/13)

### 心和ます美しい調べ

小さな小さな箏音楽会 (岩手日日 8/26)

「こんなにうまく描けるとは」絵師河口邦夫氏が直接手ほどき (週刊きたかみ 9/13)

### いわてミュージアムめぐり

怖いイメージ一掃願い (毎日新聞 9/23)

### ロマンあふれる星空の世界

大江昌嗣「銀河と月」展 (岩手日日 9/25)

## 鬼学ノート

## —氏神と作物禁忌—

高橋美穂

(鬼の館専任研究員)

鬼の館に来館するお子さんから、「鬼さんは本当にいるの?」という質問をされることがよくあります。その場合、「鬼さんは、目に見えないもので、人が作り出したもの。だからみんなの心のなかにも鬼はいるんだよ」と答えることがあります。

「鬼」と言って、それが何であるのかイメージできない人はいないと思いますが、一方で実際に見たという人もいません。それほどポピュラーでありながら実体のないものを博物館で扱うということには難しい点もありますが、もっとも面白いのは、鬼を通じてその背後に見えてくる人間の精神世界を垣間見ることではないか、と思うのです。



実体が無いにも関わらず、さもそこにいるかのように扱われるものには、鬼(妖怪含む)、神、霊などがあります。私たちは概ね、これらに対して「畏怖」や「畏敬」の念を持って接しますが、私たちと彼らの間には、様々なスタイルのやり取りが生じます。魔よけや呪いなどによって「避ける」行為、お祀りすることなどで「乞う、頼る」行為、占いや口寄せ、その他一般の事象から「メッセージを読み取る」行為など、様々なものがあります。

ここでは、そのなかの一つである「作物禁忌」について紹介したいと思います。



あの家では昔からトウモロコシを作ってはいけないと言われていたとか、あの神社の氏子はキュウリを作ってはいけないといった、特定の家や特定の地域で、特定の作物の栽培をタブー視する俗信が作物禁忌で、北海道を除くほぼ全国でみられ

ます。同じような俗信に食物禁忌がありますが、これは特定の食物を食べてはいけないとされているもので、作物禁忌は食物禁忌を伴う場合が多々あります。

これらの禁忌を持つ範囲は、特定の家であったり、本家分家関係で構成される同族であったり、ムラであったりと、同じ先祖を持つ、あるいは同じ神様を信仰する範囲であることが特徴的です。このことから、作物禁忌はそれを守る範囲を社会の中で特徴付けることでその秩序を維持しようとしたものだという解釈がなされています。しかしここでは視点を変えて、神と俗信の関係に焦点を当てたいと思います。

それでは次に、この作物禁忌の事例を紹介します。

## 【事例1】

岩手県江刺市梁川A地区は、氏神として愛宕様を祀っており、昭和10年ごろまでは旧9月24日を祭りの日とし各戸1年交代で順にヤドを務め、神楽や芝居を招いて祭りを行った。

このA地区では、キミ(トウモロコシ)とゴマを植えてはならないことになっており、由来は定かではないが現在でもそれは維持されている。

昭和初期に、ある氏子が、栽培しても大丈夫だろうとキミを植えたところ、食べごろとなった夏の盛りに家族のうち一人を残して全員が赤痢にかかって入院することになった。そこで、もう食べるばかりとなったキミをすべて抜いて、食べることなく捨てたという。

(1999年 高橋美穂調査)

この事例では、事前に「作れば赤痢になる」という伝えがあったわけでもないのに、家に起こった不幸を、禁忌を破った制裁として積極的に受け入れている姿がうかがえます。これは決して軽い制裁ではなく、それだけに禁忌が破ってはならないものであることを印象付けています。

トウモロコシとゴマは、この地域において珍しい作物ではなく、トウモロコシはむしろ作って当然の作物です。また、先の事例において、作ったトウモロコシが見事に育っていることから、この

地域がトウモロコシ栽培に適さない土壌であったわけでもないことがわかります。

生活上大切な作物であるのに作らない、栽培すれば実るにも関わらず作らない。作物禁忌とはどのような意味があるのでしょうか。

先の事例では不明となっていましたが、多くの作物禁忌には、神様とその作物との関係を示す由来が伝えられています。神様がその作物で目を出してしまい目が見えなくなったとか、つるに躓いて転んだといったものが殆どです。

このことから、作物禁忌の本質はその作物自体に禁忌の要因があるのではなく、禁忌を守る人々が「作らない」という行為を神様に捧げているものだと考えられます。つまりここでは、神様に「お願いします、お願いします」と唱えるばかりでなく、祈りを叶えてもらうために、その代替となるだけの犠牲や忍耐を、氏子自らが積極的に課してきたものだと考えることができます。

別な形態で禁忌が守られているところもあります。

### 【事例2】

岩手県江刺市玉里B地区では氏神として熊野神社があるが、この神社の別当家ではキミ（トウモロコシ）を植えてはならないと言われている。B地区で作物禁忌があるのはこの1軒だけである。（1999年 高橋美穂調査）

### 【事例3】

岩手県江刺市岩谷堂C地区にあるD姓同族の本家は、同族で祀る熊野権現の別当でもあり、四足動物を食べてはいけないという禁忌があった。これを不便に思った本家では、別当職を分家に譲ったという。

第2次世界大戦前後までこの禁忌は守られ



ており、四足動物・二足動物は食べなかった。生の玉子を食べることもできず、煮て食べるなら許されたが、煮る場は屋外に限られていた。（2002年 高橋美穂調査）

事例3は、ケガレの問題も含んでいるように思いますが、どちらもある氏子集団のなかで別当家だけに禁忌のある事例です。氏子全体に禁忌があったものを、お祓い等を受けて代表者のみによる維持に変えて行ったものかと思いますが、立証することは今のところできません。

◇

私達は、成就しにくいことを神仏に願う際、「願たて」をする場合があります。あの大学に合格するまで好物を口にしないとか、病気が完治するまで趣味を断つとか、程度は様々です。また逆に、「かなえてくれたら金輪際〇〇はしない」という祈り方もあるでしょう。

日本の神様は、私たちを守ってくれるもの、利益を与えてくれるものとして生活に深く根ざしてきました。その利益に対し、人間が捧げてきたものは、供物と祈りだけだったのでしょうか。

作物禁忌は、天候不順の年だけ行うとか、豊作だったお礼に行うといったような臨時の行為でなく、豊作にせよ不作にせよ行う恒常的な行為であることから、氏子の氏神への忠誠の証であり、それを絶えず示すことで神とのやりとり（契約）がなされると感じていたのではないかと思います。

科学全盛の今でこそ、神様は「困ったときだけ」になりつつあるのかもしれませんが、天候によって生活が大きく左右されていた時分には、神への祈りは以上のような行為となって表れていたのかもしれない。

◇

さて、神とは異なり、「鬼は外、福は内」といって避けられもすれば、鬼瓦となって家を守るために招かれもする「鬼」とは、人間の心性の、もっとも繊細で、かつもっとも難しい部分を潜ませている気がしてなりません。

（写真は岩谷堂C地区の熊野権現）

# 鬼の里だより

## ◎企画展・特別展

- 〈特別展〉平成14年度収集資料展  
3/6～4/20 =入込客数1,742人=
- 〈特別展〉開放事業①児玉晃・児玉智恵二人展  
4/27～6/22 =入込客数4,065人=
- 〈企画展17〉民画逢都繪を楽しむ～百笑一鬼～  
7/6～9/7 =入込客数6,029人=
- 〈特別展〉開放事業②大江昌嗣銀河と月展  
9/14～(開催中)

## ◎鬼っこわんぱく講座

- 5/5 「こどもの日わくわくイベント」 参加者 136人
- 8/4～8/6 「鬼っこ合宿～なまはげに会いに行こう!」  
参加者 32人

## ◎鬼ッズ・プレイミュージアム

- 4/1～9/30 張り子面作り 参加者 217人  
(七夕ワークショップ)
- 〇〇で馬を作ろう!(5回) 参加者 46人  
(夏休みワークショップ)
- 鬼剣舞面作り(3回) 参加者 56人
- 魔よけのぞうりをつくろう!(3回) 参加者 51人

## ◎鬼の館芸能公演

- |      |           |         |
|------|-----------|---------|
| 4/27 | 岩崎鬼剣舞保存会  | 観客 332人 |
| 5/4  | 鬼柳鬼剣舞保存会  | 観客 301人 |
| 5/25 | 岩崎鬼剣舞保存会  | 観客 119人 |
| 6/22 | 鬼柳鬼剣舞保存会  | 観客 174人 |
| 7/27 | 二子鬼剣舞保存会  | 観客 182人 |
| 8/12 | 岩崎鬼剣舞保存会  | 観客 122人 |
| 8/24 | 相去鬼剣舞保存会  | 観客 166人 |
| 9/28 | 御免町鬼剣舞保存会 | 観客 98人  |

## ◎音楽会

- |      |             |        |
|------|-------------|--------|
| 4/26 | 箏音楽会(邦楽愛好会) | 観客 25人 |
| 7/6  | 箏音楽会(邦楽愛好会) | 観客 28人 |
| 8/24 | 箏音楽会(邦楽愛好会) | 観客 51人 |
| 9/28 | マリンバコンサート   | 観客 47人 |

## ◎館外展示

- 4/25～5/26 東北自動車道北上・金ヶ崎上り線P.A.
- 7/1～8/3 仙台電力ビル グリーンプラザ
- 7/26～9/2 東北自動車道北上・金ヶ崎下り線P.A.

# 利用案内

- 開館時間** 午前9時から午後5時まで。  
なお、入館は午後4時30分まで。
- 休館日**
- ・12月～3月の月曜日
  - ・12月～3月の国民の祝日の翌日  
(土・日・月曜日の場合は火曜日)
  - ・館内整理日(11月27日～12月1日)
  - ・年末年始(12月28日～1月4日)
  - ・臨時休館日(11月25日)

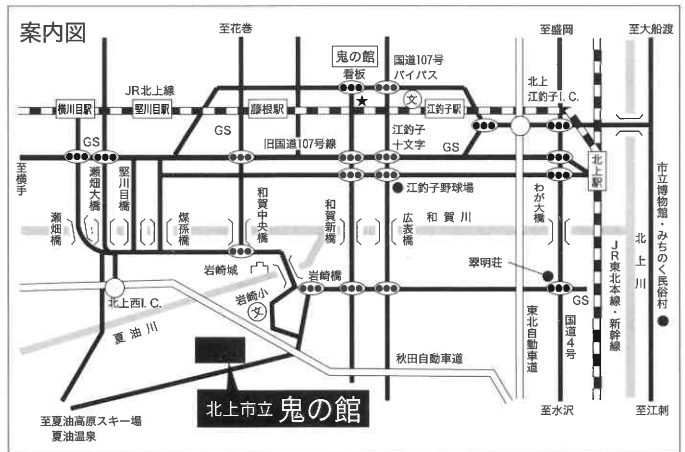
**入館料**

一般	300円(250円)
高校生	200円(150円)
小中学生	150円(100円)

( )内は20人以上の団体料金。  
下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・社会体験学習のしおりを持参した時
- ・学習活動で申請利用する時

- 交通案内**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。  
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。
  - ・JR北上駅より車で20分。
  - ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



## 北上市立鬼の館だより

第19号 2003.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎6地割31番地  
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508